

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中の部

令和三年度十月 入賞句一覧 投句数 千九百五十二句



特選

高木 佐知子 選

どんぐりがいろんなかおでおちている 大垣市 和田 愛菜(小三)

秋になると毎年どんぐり拾いを楽しみにしているのでしょう。どこに行けばどんぐりがたくさんあるのかも知っているのかもしれない。目の前のたくさんさんのどんぐりを「いろんなかおで」と表現した中七に工夫が見られます。一つ一つちがうどんぐりはみんな好きという作者のやさしさも伝わってきました。毎日の生活から生まれたすてきな一句です。

秋の空雲の形もごちそうだ 大垣市 足利 律樹(小二)

澄みわたる秋の青空に白い雲がくつきりと浮かんでいて、作者は深呼吸しながら空を見上げているのでしょうか。時間とともに次々と形を変え雲を見てみると、秋のおいしい食べ物に見えてきて、ニコニコしてる顔が想像できます。空に浮かぶ雲は何になりたのでしょうか。下五の「ごちそうだ」に秋を楽しむ作者の喜びがつまった一句になりました。

かた足でもとんでるバツタがんばれよ 大垣市 市川 椋一(小二)

原っぱで葉から葉へ飛ぶバツタをいつも見ていた作者は、片足で飛ぶバツタを見つけた時、力強く飛ぼうとする姿に感動したのでしよう。「かた足でもとんでる」の言葉に生きる力を見た作者が、思わず「がんばれよ」と声をかけたくなつた気持ちがよくわかります。もしかしたら「がんばれよ」は自分にもかけた言葉だったかもしれない。心の中もつた一句です。

秀逸

おかえりと稲穂がおじぎ帰り道 加茂郡川辺町 藤井 俊輔(中一)

くりひろいちくちくしてゐいたたのた 大垣市 日比 楓奈(小二)

衣がえ去年の服が七分そで 大垣市 長谷川 滯菜(小六)

おはようのかわりにかおるきんもくせい 大垣市 富田 梨央(小三)

さつまいもはんぶんわけてえがおだよ 大垣市 水谷 莉菜(小三)

かかしたつやさいや花をまもるため 大垣市 おく田 あきと(小四)

この夏は相撲ばかり筋肉痛 大垣市 高木 優志(小五)

夏の空ミットめがけてごう速球 大垣市 柏崎 琉斗(小五)

赤蜻蛉私の自転車ついてくる 大垣市 大和田 真瑚(小六)

墓参近くにばあちゃんいるかもな 大垣市 加納 里悠(小六)

入選

夕飯を食べながら聞く虫の音を

加茂郡川辺町

木下 瑛介(中二)

こおろぎが夜のおしゃべり楽しそう

加茂郡川辺町

赤塚 亮介(中二)

手作りのどんぐりごまで競争だ

加茂郡川辺町

藤田 未唯(中二)

がんばったそれでも負けた運動会

大垣市

後藤 優芽(小四)

すすきゆれかぜもいっしょおどってる

大垣市

竹中 結良(小四)

おつきみでおだんごたべてもつちもち

大垣市

坂 実乃璃(小四)

友の手にバトンをたくした運動会

大垣市

野呂 春翔(小六)

かわむきでゆびさきつまるくりのカス

大垣市

白井 悠真(小六)

カーテンがふわりとしたよ秋の風

大垣市

大江 くらら(小六)

ぎんなんはふんだらくさいほんとな

大垣市

篠原 羽希(小二)

えだまめがひよこんととんでびつくりだ

大垣市

えんどう のあ(小二)

どんぐりがいつぱいおちたこまづくり

大垣市

高澤 かいせい(小二)

満月はちいさなまちをてらしてる

大垣市

松村 陽菜(小四)

あかとんぼぼくの頭にのつかった

大垣市

長屋 蒼天(小四)

みのむしだ木の枝ベッドでねているよ

大垣市

萩原 煌(小四)

妹のそだてるあさがお元気よく

大垣市

高橋 直登(小五)

雲を分けまどにさしこむ月光

大垣市

山田 伊真(小六)

流れ星願い言えずにきえていく

大垣市

広せ 聡一郎(小六)

橋の上川にうつった紅葉の木

大垣市

林 春希(小六)

風にのりひらひら落ちる紅葉たち

大垣市

廣田 琴乃(小六)

選者吟

秋の雨巣箱の屋根に染み透る

佐知子



小中の部